



又野 光生さん
Matano Kouki

〔上豊内区〕

またの こうき / 「甲佐町やな場」料理長。(一社)パレットの員として、やな場の運営を通じた地域活性化に取り組む。鹿児島県肝付町出身。

冬でもあかりが灯る新しい やな場で地域ににぎわいを

「歴史あるやな場を多くの人に知ってもらい、このまちに足を運んでくれる人が増えて欲しいですね」と話すのは今年夏から「甲佐町やな場」で料理長を務める又野光生さん(上豊内区)。

ホテルの厨房で料理人として洋食を中心に6年間修業していた又野さんが甲佐に移住したのは2年前。まちづくりに取り組みパレットから声を掛けられ、訪れたこのまちの自然や歴史の豊かさに触れた

のがきっかけ。川のせせらぎや鳥のさえずりといった自然を感じながら働ける環境に魅力を感じたという。

「披露宴が開かれるようなホテルの大きな厨房では、仕事中に川の音が聞こえるなんて考えられませんでした。ここではその風景が当たり前で、なんだか懐かしい気持ちになります。お客さんとの距離も近く、感謝の言葉をいただく

とても嬉しいですね。大きな店舗で働くのとは違い、自分が主体となって料理の開発や接客ができるこの仕事が楽しいですし、同世代の若者たちの熱意も背中を押してくれます」と笑顔を見せる。

夏季営業では、自身がこれまで扱ったことのないアユ料理に挑戦。やなの張り替えなど施設維持にも汗を流した。不慣れた仕事も地域の皆さんの協力のおかげでやり遂げることができたという又野さん。自分を受け入れてくれたこのまちやこの由緒ある場所、味を守り継いできた先人たちへの恩返しのために、やな場の冬季営業の挑戦を続ける。

「これまでの冬のやな場は、誰もいない寂しいものでした。この魅力的な場所を冬の間に眠らせておくのはもったいないし、もっと多くの人に来てもらいたいと強く感じます。夜のやな場にあかりが灯り、来場者の声が響く、これまでにない新しい冬のにぎわいを作っていければ」とやな場に訪れた人を料理で笑顔にするために腕を振るう。

広報 こうさ

2023年(令和5年) 1月号
通巻642号